ISSN 0919-0120
2005. 3　No.51

豊田市郷土資料館だより

No.51

Toyota City Museum
Of
Local History

目 次

・愛知万博に豊田の文化財・郷土芸能も参加 ―― 2
・人造石工法の水制「オオダシ」―続・矢作川の水制跡― ―― 3
・鈴木正三没後350年記念事業にむけて
天草に鈴木正三の事跡をたずねて ―― 4
・挙母藩内藤家墓所 ―― 5
・新収集資料紹介 ―― 6
・発掘調査速報 ―― 7
・文化財シリーズ・資料館ニュース ―― 8

愛知万博に
豊田の文化財・郷土芸能も参加

３月25日(金)から、いよいよ愛知万博が開幕します。

愛知県で開催される初めての国際博覧会として大きな期待を集めています。

愛知万博の特徴のひとつに「県民参加」が挙げられます。期間中はさまざまな催しが計画されていますが、豊田市からも文化財保存団体の参加や郷土芸能が披露される予定です。ここでは、３月27日(日)の「豊田市の日」と４月23日(土)から29日(金)までに開催される「愛知県ウィーク・市町村フェスティバル」の紹介(関係分)をします。

豊田市の日

「豊田市の日」は「ＯＩＤＥＮ！豊田　まつりで大交流」をテーマに、豊田市の市民参加と交流のシンボルである「おいでん」をキーワードとして、新旧さまざまな祭り・文化活動が結集します。その中の一部が「伝統の継承」で構成されることになります。豊田市が誇る伝統芸能・伝統催事の美しさ、力強さをアピールするとともに、地域の歴史を世界に紹介することになります。

≪出演する文化財・郷土芸能≫

・西山万歳　　・八草のみこ舞
・中根神楽(猩々)・やっこ行列(徳川双)
・古瀬間ばやし　・銭太鼓
・棒の手
※会場：長久手愛知県館あいち・おまつり広場

愛知県ウィーク：市町村フェスティバル

４月23日(土)から始まる愛知県ウィークの「市町村フェスティバル」は「山車・からくりプロジェクト」、「お祭りプロジェクト」、「未来継承プロジェクト」、「炎の舞プロジェクト」の４プロジェクトとその連携イベントから構成されています。これらのイベントに県下から様々な団体が出演し、長久手会場内の各所で伝統芸能の披露やパレードなどが行われることになります。

お祭りプロジェクト・武者行列
　：豊田の棒の手　24日(土)出演
お祭りプロジェクト・あいち伝統芸能名選
　：西山万歳　　25日(月)出演
シンボルイベント・まつりの華　愛知のこころ・粋
　：八草のみこ舞　24日(日)出演

（山車・からくりプロジェクト）

このプロジェクトは、県下から100輌余の山車が一堂に集まるという前代未聞の規模になります。豊田市からも９輌（県指定文化財「挙母神社の山車８輌」、宮前町の山車１輌）の山車が出展される予定です。挙母神社の山車は江戸時代からの長い歴史を持っていますが、これまでに市外へ持ち出され展示されたことはありません。長い伝統の中で大切に伝えられてきた山車が、万博の舞台で世界に紹介されることになります。

100輌余の山車は、万博会場内の４か所に分散し、展示されます。挙母神社の山車は、フェスティバル前日の22日(金)から24日(日)まで日本広場に、宮前町の山車は23日(土)から25日(月)まで愛・地球広場に展示される予定です。また、期間内には挙母祭のお囃子・子ども歌舞伎・七福神踊りが披露されるほか、山車の曳き廻しも予定されています。

挙母神社の山車

人造石工法の水制「オオダシ」

― 続・矢作川の水制跡 ―

水制とは、川を流れる水の勢いの緩和や流路を調整するために設けられた工作物のことです。館だより第49号では、「ナカダシ」と呼ばれる矢作川左岸に設置された水制跡を紹介しました。今回は、そのナカダシから200ｍほど上流にある「オオダシ」と呼ばれる水制跡について紹介します。

位置図
（▨ 百々貯木場　● ナカダシ　▲ オオダシ）

オオダシは、矢作川とその支流・天王川の合流点から、矢作川沿いに上流方向へ約150m 行った地点の堤防を川側へ降りていくと、その姿を見ることができます（扶桑町４丁目地内）。また、対岸の矢作緑地越戸公園からもオオダシを眺めることができます。

オオダシ（上流側に向く長辺）

オオダシの姿は、一見すると石積みの壁です。石は、表面の形が約20～40cm 角の長方形が多く、間知（けんち）石積み状に斜めに配されています。しかし近づいてよく見ると、石と石との間隔が大きく、その間の表面を覆っているモルタルが剥がれた部分には、石のように硬く締まった土が充填されています。これにより、オオダシは単なる石積みや表面を石張りしたコンクリートではなく、明治・大正期に特徴的な工法である人造石工法によって造られた構造物であることがわかります。

現在目にすることができるオオダシの規模は、高さ約２ｍ・延長約12ｍです。川が運んできた砂の堆積により埋まっている部分もあるため、本来の高さは約３ｍあったと考えられます。また、上流側へ続く人造石の壁の延長線上は全体が埋没していますが、堤防に接して石材が土中から顔を出しており、この部分がオオダシの端部と考えられます。ここから測るオオダシの総延長は約28ｍです。

オオダシ（短辺）と矢作川の流れ

オオダシを上から見ると、長辺が上流側に、短辺が下流側へ面するＬ字形になっています。この形はナカダシと同様であり、工法などの共通点から、オオダシはナカダシや百々貯木場と同じ大正時代に築造されたと考えられます。ただし、Ｌ字形の角の部分がナカダシは鋭角になっているのに対し、オオダシは丸くなっている点や、ナカダシは一部分のみが人造石工法によって造られているのに対し、オオダシは確認できる部分の全部が人造石工法で造られている点が異なります。

矢作川左岸に並ぶ百々貯木場、ナカダシ、オオダシは、人造石工法を伝えるとともに、川と人々との関りを示す貴重な遺産です。矢作川沿いを散策しながらご覧になってはいかがでしょうか。　（天野博之）

鈴木正三没後350年記念事業にむけて

平成17年6月に、江戸時代初期の仏教思想家・鈴木正三の没後350年を迎えます。豊田市郷土資料館では、特別展「鈴木正三　ーその人と心ー」を開催します。特別展に向けて行っている準備内容よりご紹介します。

天草に鈴木正三の事跡をたずねて

熊本県の天草諸島は、正三とゆかりの深い土地です。江戸時代はじめに起きた天草・島原の乱(1637～38)は、農民とキリシタン信者が起こした大乱ですが、この乱の後、幕府領となった天草に初代の代官として赴任したのが、正三の弟・鈴木重成でした。重成は、天草の４万２千石の石高を半減するため切腹までしたと伝えられるほど(実際には病死)、天草では名代官としてその名を知られ、鈴木神社に祭られるほどの人物です。

鈴木神社は、重成の遺髪を埋めた遺髪塚があった場所に寛延２年(1749)になって社殿が新築されたものです。鈴木神社には、重成のほか正三、重辰（しげとき）（正三の実子・重成養子・二代天草代官）もあわせて祀られています。正三は、弟・重成を助け寺社の復興・建築を行い、「破切支丹」を著して仏教の教えによって人々が救われる道を示しました。天草の人々にとって正三は、精神的に復興を支えた人物として大きな位置を占めるのでしょう。

鈴木神社（本渡市本町）

天草での鈴木氏の大きさを感じるもう一つのものに「鈴木さま」があります。これは石の祠・あるいは石像を祀ったもので、30か所以上あります。石像は正三と重成、重辰です。

「鈴木さま」の建立の理由は、乱後に処罰されなかった事に対する感謝の念、支配者層への従順の意を表すため、キリシタンからの転宗を明確にするためなど、様々考えられています。その建立の経緯も支配者からの命令によるものか、民衆の自発的なものか明確ではありませんが、身近にある祠に手を合わせるという生活の中で、「鈴木さま」が人々の心に浸透し、語り継がれてきたに違いありません。

鈴木塚

一昨年、天草では「鈴木重成公没後350年記念事業」が行われ、本渡市立歴史民俗資料館にて特別展「～天草を救った代官～鈴木重成とその周辺」が開催されました。

これまで伝説のように語られてきた石高半減を願い切腹した代官といった重成に関する事跡が歴史的資料によって訂正され、新たな重成像が描かれつつあります。重成の仕事を引き継いだ重辰が出した「鈴木伊兵衛村取極御触」（鈴木伊兵衛条令）によると住民のための施策を多く打ち出した代官としての政治姿勢がうかがえます。

一方、正三は代官が行った32か所以上におよぶ寺社の復興・建築に大きくかかわり、寺社領300石を配分しました。（現在知られる石高寺社は20か所）多くの寺社の建築は、人々に仕事を与えると同時に精神的なより所となったと思われます。

天草における正三および二代に渡る鈴木代官の業績は、「世法即仏法」を解く正三思想の実践と考えられるのではないでしょうか。

（参考:「鈴木重成とその周辺」）　　（伊藤智子）

正三開基の正覚寺（天草郡有明町・寺領10石）

挙母藩内藤家墓所

（市内小坂町３–10洞泉寺境内）

挙母藩は慶長９年(1604)、三宅康貞が武蔵国瓶尻(みかじり)から１万石で三河国加茂郡挙母に封ぜられてはじまりました。寛文４年(1664)、三宅氏が田原藩に転封となり廃藩、幕府領となりますが、天和３年(1683)、陸奥国石川から本多氏が１万石で入封し、再び立藩しました。

寛延２年（1749）内藤氏が上野国安中より内藤氏が２万石で入封し、七世120年間、豊田市域を治め版籍奉還をむかえました。初代政苗(まさみつ)より学文(さとふみ)、政峻(まさみち)、政成(まさなり)、政優(まさひろ)、政文(まさふみ)、文成(ふみなり)とつづき七州城築城、城下建設、藩学･武道の繁栄など多くの事績を残しました。

洞泉寺は正和２年(1313)上伊保に法相宗の寺として創建され、のちに浄土宗になったと伝えられています。万治３年(1660)、衣下町の蔵前に移り、内藤家の入封とともにその菩提寺となりました。天明５年(1785)の七州城引城とともに洞泉寺も小坂町の現在地に移転、今日に及んでいます。藩からは境内地の除地、回向料の寄進をうけました。

挙母藩内藤家の江戸における墓所は三田の光台院にあり、初代政苗～六代政文の墓塔がありましたが火災で焼失し、大正13年に時の当主政光(まさみつ)が建てた「内藤家歴世墓」と記した墓塔が残されているのみにすぎません。

左から墓石①②③④⑤⑥

墓所は洞泉寺本堂の真裏の通路に南面し、平面形は東西方向に長い長方形で、幅２～3m、高さ1.5m前後の土塁がめぐります。正面の東、西端に土塁が切れ、出入口がつきます。背面は緩やかな丘陵につづき墓地となっています。東側は一段と低くなり谷地形に、西側はほぼ同レベルの丘陵につづき墓地となっています。土塁内部に第七代藩主文成をはじめ藩主の生子と兄弟、生母の墓碑７基が一列に並んでいます。西から順をおって墓碑銘を列挙しますと、

①瑞華院秀誉儀同貞節大姉

宝暦七丁　略　（初代政苗兄･政陽母）

②豊腊院殿貯誉徳法堂楽居士

明治六年　略　（四代政成子・政優弟･政乂）

③法漫院教誉妙月了澄大姉

文化二乙　略　（四代政成弟･政照、政興母）

④法玉院殿稚含幻夢大童子

文久三癸　略　（五代政優弟･政乂次男）

⑤見生院殿暁饗幻相大童子

文化四丁　略　（三代政峻子･政成弟･政興）

⑥従三位内藤文成之墓

明治三十四　略　（七代藩主･文成）

⑦寶光院殿瑤夢稚幻大童女

明治三十五　略　（七代藩主子）

墓塔の大きさは番号①～⑥は塔身81～102㎝、31.5～33.5㎝角。⑦は66、28.8㎝角。①～⑤は笠付型で台座の上に塔身をおき、笠、宝珠をのせています。②④⑤は台座と塔身の間に蓮弁を立体的に作り出した請花で装飾されています。①③の台座には簡素な蓮弁が刻まれています。①～③は笠にていねいな唐破風が作り出されています。⑥⑦は塔身のみで笠は付きません。③⑤は花崗岩製の囲い柵がめぐっています。

墓塔群は全体に大きく、均整がとれ、大名の墓地としての荘厳さがただよっています。墓所は挙母藩及び藩主内藤家の歴史を伝える桜城跡、七州城跡、鉄砲山につぎ数少ない史跡です。江戸時代後期～明治時代における武士階級の墓地形式と墓石の原形が良好な状態で残されており、資料的価値も高いと思われます。

左から墓石②③④⑤⑥⑦

（松井　孝宗）

新収集資料紹介

○　風外本高画「仙人図」軸

紙本著色　縦132㎝×横62㎝　（本年度購入資料）

風外本高(1779～1847)は、伊勢国生まれ、江戸時代後期の曹洞宗の僧侶で、天保５年(1834)、足助の香嵐渓にある香積寺の住職となりました。書画に堪能で多くの作品を残しています。本資料は、画面中央に大きく仙人を描いた大幅の軸です。仙人は岩上で頬杖をつき、思索にふけるかのようです。簡略化された、味わいのある筆使いは風外の特徴的なものです。当館では、郷土ゆかりの人物として風外和尚の書・画をこのほかに10点ほど所蔵しています。

○　挙母藩主拝領「裃」

肩衣　丈69㎝、袴　丈89㎝　（本年度寄贈資料）

淡い藍色で、細かい地紋が施された裃です。挙母藩内藤家の家紋「下がり藤」がついています。袴には「安政五午年(1858)拝領仕候」と書かれた和紙が貼られ、拝領した年がわかります。使用された形跡はなく、上下ともに仕付け糸が付けられたまま、たたまれ、畳紙に納められていました。畳紙も墨付きの文書を張り合わせて作られたもので、表に「夏物」と記されています。伝来した家では、殿様からの拝領品として大切に保管していたのでしょう。およそ150年前から大切にされてきた資料は、挙母藩内藤家ゆかりの品として、郷土の歴史を物語る資料として寄贈を受け入れました。

○　『侍ニッポン』

縦19.1㎝×横13.6㎝　昭和６年発行　尖端社　（本年度購入資料）

『侍ニッポン』は、幕末を舞台にした武士の物語です。昭和6年映画化され、有名になりました。同時に映画の主題歌「サムライ　ニッポン」もビクター社から発売されましたが、その主題歌を作曲したのが、豊田市ゆかりの作曲家・松平信博です(作詞は西條八十)。松平信博は、流行歌のほか無声映画全盛期に映画の場面ごとの挿入曲を作曲したりしています。

松平信博は、市内松平郷の領主であった松平太郎左衛門家の20代当主です。戦争中、松平郷に疎開していたこともあり、「松平音頭」を作曲したことでも知られています。松平町にある松平郷館には信博使用のピアノ・蓄音機・楽譜などが展示されています。本資料も、こうした信博ゆかりの資料として購入しました。

どうたくん

発掘調査速報

すえちゃん

○高橋遺跡〔高橋町７丁目〕

本遺跡は、弥生時代中期末から平安時代に及ぶ県内屈指の集落遺跡です。

今回の範囲確認調査では、遺跡の最北端と考えられる市営高橋町住宅跡地に、計９本(240㎡)の試掘溝を設定しました。竪穴住居は見つからず、方形周溝墓(ムラ長の墓)のコーナー部分を２か所で検出しました。溝底からは、弥生時代終末期(約1,800年前)の壺などが出土しています。ほかにも方形周溝墓の溝と思われる遺構を検出しているため、この場所は高橋遺跡の墓域となる可能性が高いと考えられます。

方形周溝墓のコーナー部分

○郷上（ごうがみ）遺跡〔鴛鴨町郷上〕

今回は、県埋蔵文化財センターによる平成９･10年度調査地点の北側を試掘しました。水田には、深さ２～３ｍに及ぶ14本のトレンチを設置しましたが、遺構は確認できませんでした。一方、微高地上にある畑の地表下1.4ｍ前後からは、中近世の溝や井戸などが見つかりました。溝は屋敷を区画するもので、幅３ｍ、深さ0.4ｍほどの規模です。また、井戸は半裁した竹を並べて井戸枠としていました。現在の鴛鴨集落は度重なる水害を避けるため、江戸時代中期に沖積微高地から台地上に移動したことが文献に記されており、移動前の集落の姿を垣間見ることができます。

井戸の検出状況

○堂外戸（どうがいと）遺跡〔市木町堂外戸〕

１月から後半の調査区にとりかかっています。注目の大溝は、緩やかな弧を描きながら台地端部にそのまま向かい、これまでに延長110ｍ以上を検出したことになります。断面Ｖ字形の溝は、現状で幅２ｍ、深さ0.8ｍ前後の規模です。ガス管などの激しいかく乱を受けていますが、溝の中ほどからは４世紀代に遡る土器が少量、上部からは５世紀代の土器が集中して出土しています。また、新たに竪穴住居７棟と掘立柱建物６棟が見つかりました。竪穴住居の大半と総柱の掘立柱建物２棟は、４・５世紀代に属すると考えられます。

通常、集落を囲む環濠は、弥生時代終末期のうちに埋められてしまいますが、本遺跡の西2.2㎞に位置する梅坪遺跡においては、５世紀まで環濠が維持されています。本遺跡の大溝がいかなる機能を担っていたのか、注目が集まります。

大溝上部からの遺物出土状況

文化財シリーズ 51

野風炉（市指定文化財・民芸）

野風炉とは、武家・僧門の人々が、遊山や旅など道中に携行した野外用茶道具です。この野風炉は木製鉄針金付の箱型で、棒をとおし担いで運んだものと思われます。高さ42㎝、幅43.5㎝、奥行き19㎝です。

上下２段に分かれており、上段にある茶釜・水指は取り出しができるよう取っ手がついています。茶釜には水入れと炭入れの口がついています。下段は引出しになっており、茶器などを入れていたと思われます。

各部分の材質と寸法　（単位：㎝）

	材　質	高　さ	幅	奥　行
茶　釜	赤銅製	15	24.5	15
水　指	赤銅製	15	14.5	15
引　出	木　製	17.5	40	18

また、引出しの取っ手の部分には松平氏の裏家紋と思われる「丸に二引」紋が描かれています。野風炉は現存するものが数少なく、江戸時代の民俗資料として貴重なものです。

昭和47年２月24日に豊田市の有形民俗文化財に指定されました。

資料館NEWS

文化財防火予防デー

毎年１月26日は「文化財防火予防デー」です。これは、昭和24年(1949)１月26日に奈良県法隆寺の金堂壁画を焼損したことから、文化財に対する防火意識の高揚を図ろうと昭和30年(1955)に設けられました。

豊田市では１月21日(金)六鹿邸、24日(月)長興寺・隣松寺、25日(火)医王寺、26日(水)民芸館、27日(木)永福寺で防火訓練を実施しました。

六鹿邸にて

企画展「明治用水と枝下用水-矢作川からの取水-」終了

企画展「明治用水と枝下用水-矢作川からの取水-」を開催しました。１月29日(土)～３月６日(日)の会期中、944名の来館者がありました。

春休みこども週間「きょうどしりょうかんであそぼう！」

３月19日(土)～３月31日(木)まで、春休みこども週間「きょうどしりょうかんであそぼう！」を実施します。

※28日(月)休館

こま、けんだま、ビー玉、フラフープ、お手玉、ふくわらい、すごろくなど昔懐かしい遊びを体験することができます。時間は午前10時から午後４時までで、参加無料です。みなさまお誘いあわせの上、ぜひ郷土資料館へあそびにきてください。

利用案内

開館時間	9:00～17:00	
休 館 日	毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始	
入 場 料	無料(ただし特別展開催中は有料となります)	
交　　通	名鉄「梅坪駅」より南へ	徒歩10分
	名鉄「豊田市駅」より北へ	徒歩15分
	愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ	徒歩17分
駐 車 場	約20台(無料)	

■豊田市郷土資料館だより No.51■

平成17年３月18日発行

編集・発行　豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎ (0565) 32-6561　FAX (0565) 34-0095

E-mail ： rekihaku @city.toyota.aichi.jp

URL ： http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはＨＰでもご覧になれます。

R100 古紙配合100%再生紙を使用しています